

1 学校運営の中期目標

現状と課題

2020年代を通じて実現すべき「令和の日本型学校教育」の姿とは、一人一人の児童が自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるよう、その資質・能力を育成することである。

これまでの「正解主義」や「同調圧力」への偏りから脱却し、子どもたちの思考を深める「発問」を重視していくことや、子どもたち一人一人の多様性と向き合いながら一つのチームとしての学びを高めていくことが重要である。誰一人取り残すことのない、持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現に向け、一人一人の児童が生涯にわたって能動的に学び続けることをめざしていく必要がある。

本校のスローガンは「みんながつくる みんなの学校 長原小」であり、「みんな=自分」として、「当事者意識」を大切にしている。学校教育目標は、「子どもも大人もいきいきしている学校」であり、キーワードは、「笑顔」「元気」「楽しい」の3つである。そして、「子どもに育みたい3つの力」として、

一つ目は、「自分も人も大切にする力」（「思いやり」「自信」「自分が好き」「自尊感情」）であり、二つ目は、「自分で考え、行動する力」（「自分らしく」「主体的」「自分の言葉で語る」）であり、三つ目は「自分からチャレンジする力」（「夢」「目標」「あきらめない」「やりがい」）を掲げ、子どもも大人もそれぞれの力を高めている。

こうした「子どもに育む力」を常に意識しながら、教科指導や生活指導など、学校生活のあらゆる場面で、その実現に向けて教育活動を進めていく。なかでも、「安全対策」については「子どもの命を守ることを最優先課題として取り組んでいく。また、「学力向上」については、「わかる・できる」＝「楽しい」の原点を肝に銘じて、日々の授業力向上に取り組んでいく。「体育的活動」については、健康であること第一として、運動能力がバランスよくなるように日々の体力向上に取り組んでいく。「読書活動」については、「本は財産」と言われるごとく、児童にとっての貴重な経験の場になるため、数多くの本にふれることのできる活動に取り組んでいく。

そして、「めざす学校の姿」は「学校と家庭と地域がひとつになって『自己肯定感』をもつ子どもを育てる教育活動を推進する」ことである。「自己肯定感」や「自己有用感」をもつことはとても大切な課題である。「授業を開く」や「地域を開く」など、学校が常にオープンに家庭や地域等との連携・協働した教育を推進することは必須である。常に子どもを真ん中にして、学校と家庭と地域をつなぐことができる学校運営に取り組んでいく。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- ①令和7年度末の学校アンケート調査の「学校の生活は楽しい」に対して、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。
- ②令和7年度末の学校アンケート調査の「自分の命は自分が守っている」項目について、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。
- ③令和7年度末の学校アンケート調査の「自分にはよいところがある」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。
- ④令和7年度末の学校アンケート調査の「自分も人も大切にしている」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。
- ⑤令和7年度末の学校アンケート調査の「自分からチャレンジしている」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ①令和7年度末の学校アンケート調査の「自分で考えて行動している」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。
- ②令和7年度末の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の体力合計点の対全国比の割合を、令和3年度より0.5ポイント向上させる。※全国平均を1とした時の割合

【学びを支える教育環境の充実】

- ①令和7年度末の小学校学力経年調査の「読書は好きですか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。
- ②令和7年度末の学校アンケート調査の「学校は学年だよりや学校だより、ホームページ等でよく知らせている」の項目について、肯定的に回答するサポーターの割合を90%以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【安全・安心な教育の推進】

全市共通目標

- ①小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を80%以上にする。
- ②年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。
- ③年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。

学校園の年度目標

- ①令和5年度末の学校アンケート調査の「学校の生活は楽しい」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。
- ②令和5年度末の学校アンケート調査の「自分の命は自分が守っている」項目について、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。
- ③令和5年度末の学校アンケート調査の「自分にはよいところがある」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする
- ④令和5年度末の学校アンケート調査の「自分も人も大切にしている」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。
- ⑤令和5年度末の学校アンケート調査の「自分からチャレンジしている」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

全市共通目標（小・中学校）

- ①小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を30%以上にする。
- ②小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.2ポイント向上させる。
- ③小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を70%以上にする。
- ④小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を70%以上にする。
- ⑤小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を60%以上にする。

学校園の年度目標

- ①令和5年度末の学校アンケート調査の「自分で考えて行動している」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。
- ②令和5年度末の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の体力合計点の対全国比の割合を、前年度より0.2ポイント向上させる。※全国平均を1とした時の割合

【学びを支える教育環境の充実】

全市共通目標（小・中学校）

- ①令和5年度末の学校アンケート調査の「毎日の授業の中でICT機器を使われているとわかりやすいですか。」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。
- ②ゆとりの日の設定を毎週1回設定する。学校閉庁日については、夏季休業期間中は4日以

上、夏季休業期間以外の休業期間においては3日以上設定する。

学校園の年度目標

- ①令和5年度末の小学校学力経年調査の「読書は好きですか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を前年度より増加させる。(R4 79.7%)
- ②令和5年度末の学校アンケート調査の「学校は学年だよりや学校だより、ホームページ等でよく知らせている」の項目について、肯定的に回答するサポーターの割合を90%以上にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

(様式2)

大阪市立長原小学校 令和5年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】</p> <p>全市共通目標</p> <p>①小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことがありますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を80%以上にする。</p> <p>②年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。</p> <p>③年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる</p> <p>学校園の年度目標</p> <p>①令和5年度末の学校アンケート調査の「学校の生活は楽しい」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。</p> <p>②令和5年度末の学校アンケート調査の「自分の命は自分が守っている」項目について、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。</p> <p>③令和5年度末の学校アンケート調査の「自分にはよいところがある」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。</p> <p>④令和5年度末の学校アンケート調査の「自分も人も大切にしている」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。</p> <p>⑤令和5年度末の学校アンケート調査の「自分からチャレンジしている」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <ul style="list-style-type: none"> 職員室に情報が集約されるよう、どんな些細なことでも何かあれば職員室に伝えることや「全児童確認ボード」を活用して、日々の児童情報を共有する。 「ミマモルメ」の全保護者の登録を図る。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 年度末の学校アンケート（サポーター）において「学校は問題が起こったときに迅速に対応している」の肯定的な回答をする割合を90%以上にする。 	
<p>取組内容②【基本的な方向2 豊かな心の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> 道徳教育やキャリア教育、人権を尊重する教育（「ちがいを認め合う実践」）などを行い、自己を見つめ、自己肯定感を高める学習を行う。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 年度末の学校アンケート（子ども）において「自分にはよいところがある」の肯定的な回答をする割合を80%以上にする。 年度末の学校アンケート（子ども）において「自分も人も大切にしている」の肯 	

定的に回答する割合を 80%以上にする。

取組内容③【基本的な方向 1 安全・安心な教育環境の実現】

- ・年 3 回（不審者・火事・地震（津波））の避難訓練に加え、交通安全指導、集団下校訓練など様々な児童の安全対策を行う。

指標

- ・年度末の学校アンケート（子ども）において「自分の命は自分が守っている」の肯定的な回答をする割合を 80%以上にする。
- ・年度末の学校アンケート（サポーター）において「学校は子どもたちの安全対策に努力している」の肯定的な回答をする割合を 90%以上にする。

取組内容④【基本的な方向 2 豊かな心の育成】

- ・学年に応じた「体験活動」（1 年「生活科の体験学習」「昔あそび」、2 年「商店街見学」3 年「今昔館」4 年「大阪市立科学館」5 年「読売新聞社」6 年「ピース大阪」「大阪歴史博物館」等による体験や見学を通じて、キャリア教育の充実や情操豊かな心を育てる。

指標

- ・年度末の学校アンケート（子ども）において「体験学習や社会見学で積極的に活動することができる。」の肯定的な回答をする割合を 80%以上にする。

取組内容③【基本的な方向 2 豊かな心の育成】

- ・児童朝会や児童集会、また、運動会や児童会活動などの各種学校行事で「自分から自分らしく自分の言葉で語る」ことに子どもも大人もチャレンジする。

指標

- ・年度末の学校アンケート（子ども）において「自分からチャレンジしている」の肯定的な回答の割合を 80%以上にする。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

次年度への改善点

(様式 2)

大阪市立長原小学校 令和 5 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標 2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <p>①小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 30%以上にする。 (R4 29.4%)</p> <p>②小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.2 ポイント向上させる。</p> <p>③小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 70%以上にする。</p> <p>④小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 70%以上にする。</p> <p>⑤小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を 60%以上にする。</p> <p>学校園の年度目標</p> <p>①令和 5 年度末の学校アンケート調査の「自分で考えて行動している」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を 80%以上にする。</p> <p>②令和 5 年度末の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の体力合計点の対全国比の割合を、前年度より 0.2 ポイント向上させる。 ※全国平均を 1 とした時の割合</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ひらちゃん読書ノートを活用した読書習慣の定着や「ドリルタイム」の設定、また 3 年生以上の漢字検定の受検、4 年生以上の自学ノートの活用を行い、基礎学力の向上をはかる。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度末の学校アンケート（子ども）で「ドリルタイムをして学習が分かるようになりましたか。」「漢検合格を目指して、漢字の学習にコツコツ取り組みましたか。」の肯定的な回答をする割合を 80%以上にする。 	
<p>取組内容②【基本的な方向 5 健やかな体の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なわとびタイム実施したり、体育の授業で跳躍力を高める活動を取り入れたりすることにより跳躍力を向上させる。 	

指標

- ・前期（5月のスポーツテスト）と後期に立ち幅跳びの記録をとり、5月のスポーツテストの記録に比べて平均値を4cm向上することを目標とする。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

次年度への改善点

(様式 2)

大阪市立長原小学校 令和 5 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実】</p> <p>全市共通目標(小学校)</p> <p>【ICT の活用に関する目標を設定する】</p> <p>①令和 5 年度末の学校アンケート調査の「毎日の授業の中で ICT 機器を使われているとわかりやすいですか。」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を 80% 以上にする。</p> <p>【教職員の働き方改革に関する目標を設定する】</p> <p>②ゆとりの日の設定を毎週 1 回設定する。学校閉庁日については、夏季休業期間中は 4 日以上、夏季休業期間以外の休業期間においては 3 日以上設定する。</p> <p>学校の年度目標</p> <p>①令和 5 年度末の小学校学力経年調査の「読書は好きですか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を前年度より増加させる。(R4 79.7%)</p> <p>②令和 5 年度末の学校アンケート調査の「学校は学年だよりや学校だより、ホームページ等でよく知らせている」の項目について、肯定的に回答するサポーターの割合を 90% 以上にする。</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容① 【基本的な方向 8 生涯学習の支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> 全校一斉の読書タイム（「本につかる朝」）を毎週金曜日の朝学習として実施し、子どもたちがいきいきと読書を楽しむ環境をつくる。 <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 年度末の学校アンケート（子ども）において「読書タイムは楽しいですか」の肯定的な回答の割合を 80% 以上にする。 	
<p>取組内容② 【基本的な方向 9 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校からの情報を、「学校だより」や「学年だより」「学校ホームページ」等で発信し続け、地域やサポーター（保護者）とともに学校をつくる。 <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 本年度の学校ホームページのアクセス数を前年度の 5% 増（32800 件）とする。 	

取組内容③【基本的な方向 7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】

- ・「新たな教師の学びの姿（主体的・自律的・常に学び続ける・個別最適な学び・協働的な学び）」に基づく研修（研究）により、いきいきとやりがいを持って自己成長することができ、学校組織を活性化する。

指標

- ・年度末の学校アンケート（サポーター）において、「教員は子どものことをよく考え、明るくいきいきと関わっている。」の肯定的な回答をする割合を80%以上にする。

取組内容④【基本的な方向 6 教育DXの推進】

- ・1人1台端末の環境を活かし、個別最適な学びと協働的な学びの実現に向けた取り組みを行う。

指標

- ・年度末の学校アンケート（子ども）において「毎日、学習者用端末を操作しましたか。」の肯定的な回答をする割合を80%以上にする。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

次年度への改善点